ETHX-3400 SHDSL モデム 基本セットアップガイド



ETHX-3400 基本セットアップガイド

項目

- 1. SHDSLポートの接続
- 2. 初期設定情報
- 3. コンソールへのアクセス
- 4. IPアドレスの設定(CLI)
- 5. IPアドレスの変更(CLI)
- 6. Webマネジメントへのアクセス
- 7. CO/CPEモードの設定(WEB)
- 8. CO/CPEモードの設定(CLI)
- 9. リンク速度の設定(WEB)
- 10. リンク速度の設定(CLI)
- 11. Bond Groupの作成(WEB)
- 12. Bond Groupの作成(CLI)
- 13. Bond GroupへのSHDSLポートの追加(WEB)
- 14. Bond GroupへのSHDSLポートの追加(CLI)
- 15. Bridgeの設定(WEB)
- 16. Bridgeの設定(CLI)
- 17. マルチアクセス可能なBridgeの作成(CLI)
- 18. ユーザアカウントの設定・変更(CLI)
- 19. ステータス確認(WEB/CLI)
- 20. ステータス確認(LED)

1. SHDSLポートの接続

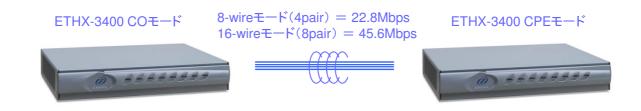
ETHX-3444モデムでは、SHDSLポートを4ポート持っており、1ポートで(5.7M), 4ポートを同時に接続することにより22.8Mでの接続が可能。ETHX-3484モデムでは、SHDSLポートを8ポート持っており、8ポートを同時に接続することにより45.6Mでの接続が可能。

ポイント・ツー・ポイントの対向接続だけではなく、マルチポイントの接続にも対応した小規模センター装置としても使用可能。

※ETHX-3444にもSHDSLポートが物理的に8ポートありますが、1~4ポートしか使用できません。

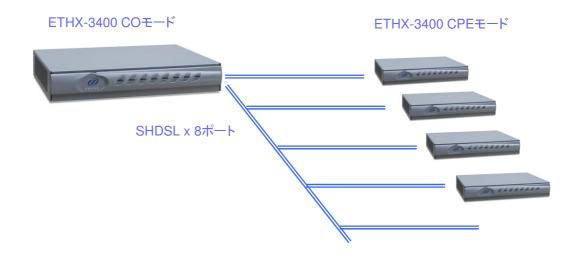
ポイント・ツーポイント接続(対向接続)

EFMボンディングにより、最大8回線(16-wire)を仮想的に1つの回線として45Mの高速なアクセス回線での接続が可能。



マルチポイント接続

センター側に設置し、複数のCPEと接続することも可能。



2. 初期設定情報

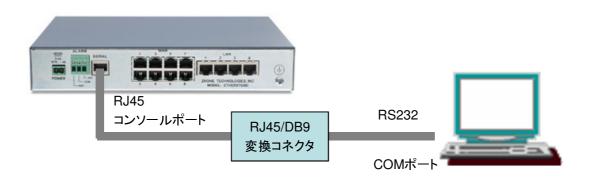
ETHX-3444-JPの納品時の初期設定情報を以下に示します。

項目	設定内容	関連項番
CO/CPE T —F	CPE	7, 8
IPアドレス	DHCPクライアント	4, 5
アカウントロ	ンドD admin	
パスワード	zhone	18
接続タイプ(マルチ/対向)	対向	11, 12, 13, 14
Bond Group 削除	SHDSL1: 99 EFM SHDSL2: 99 EFM SHDSL3: 99 EFM SHDSL4: 99 EFM	-
Bond Group 作成	SHDSL1: 99 N2N SHDSL2: 99 N2N SHDSL3: 99 N2N SHDSL4: 99 N2N	
Bridge 削除	ethernet1: VLAN 0 tagged ethernet2: VLAN 0 tagged ethernet3: VLAN 0 tagged ethernet4: VLAN 0 tagged	
Bridge 作成	SHDSL1: VLAN 7 untagged: Transparent LAN Service SHDSL2: VLAN 7 untagged: Transparent LAN Service SHDSL3: VLAN 7 untagged: Transparent LAN Service SHDSL4: VLAN 7 untagged: Transparent LAN Service	
マルチアクセス可能なBridge 作成	設定無し	17

[※]本設定は、工場出荷時の設定となります。

3. コンソールへのアクセス

1. ETHX-3400モデムのコンソールポート(シリアルクラフトポート)へPCを接続します。



2. ターミナルソフトにてシリアル接続したとき、ユーザIDとパスワードを聞かれますので、ユーザIDとパスワード(初期:admin/zhone)を入力してコンソール画面へログインする。



ユーザID: admin パスワード: zhone

※シリアル接続する際に、ターミナルソフトのシリアルポートを以下のように設定します。

・ビット/秒: 9600 ・データ ビット: 8 ・パリティ: なし ・ストップ ビット: 1 ・フロー制御: なし

4. IPアドレスの設定(CLI)

Factory default設定(工場出荷時の設定)では、マネジメントIPアドレスが設定されていないため、コンソール画面から、下記コマンドでIPアドレスの設定を行う必要があります。

1. IPアドレスの設定

>delete ip-interface-record AutoConfig/ip

Delete ip-interface-record AutoConfig/ip? [y]es, [n]o, [q]uit: y ←"y"を入力 >interface add 1-1-6-0/ipobridge vlan 7 192.168.1.1/24





- ①・・・デフォルトのVLAN ID
- ② ・・・ 設定するIPアドレス/サブネットマスク

2. IPアドレスの設定の確認

>interface show

1 interface Interface	Status	s Rd/Address	Media/Dest Address	IfName
1/1/6/0/ip	UP	1 192.168.1.1/24	00:01:47:30:52:32	ipobridge-7

1.で設定したIPアドレス/ サブネットマスク

※WEBマネジメント上では実行できません。

5. IPアドレスの変更(CLI)

マネジメントIPアドレスが設定されている場合、コンソール画面から、下記コマンドでIPアドレスの変更が可能です。

1. 現在のIPアドレスの削除

>interface delete 1-1-6-0/ipobridge

2. IPアドレスの設定

>interface add 1-1-6-0/ipobridge vlan 7 192.168.1.2/24





- ①・・・デフォルトのVLAN ID
- ② ・・・ 設定するIPアドレス/サブネットマスク
- 3. IPアドレスの設定の確認

>interface show

1 interface Interface	Status	s Rd/Address	Media/Dest Address	IfName
1/1/6/0/ip	UP	1 192.168.1.2/24	00:01:47:30:52:32	ipobridge-7

2.で設定したIPアドレス/ サブネットマスク

- ※WEBマネジメント上では実行できません。
- ※PCと異なるネットワークのIPアドレスを設定すると、PCの設定を変更するまで、WEBマネジメントにアクセスできなくなります。

6. WEBマネジメントへのアクセス

1. 接続するPCのIPアドレスをETHX-3400のIPアドレスと同じネットワークのアドレスに設定します。

例) ETHX-3400のIPアドレスを192.168.1.1/24に設定した場合、接続するPCのIPアドレスを192.168.1.x/24に設定します。

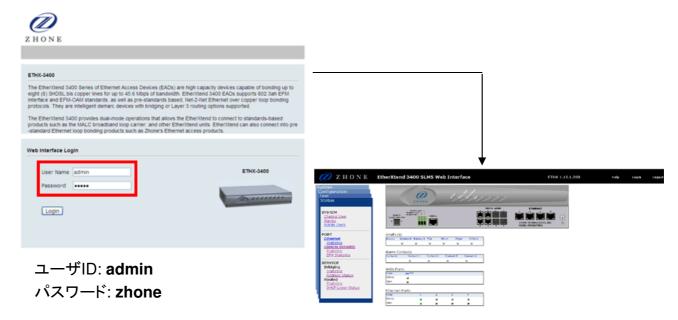
2. LANケーブルでETHX-3400モデムのLANポート1へPCを接続します。



3. PCのブラウザにETHX-3400モデムのIPアドレス(例: 192.168.1.1)を入力する。

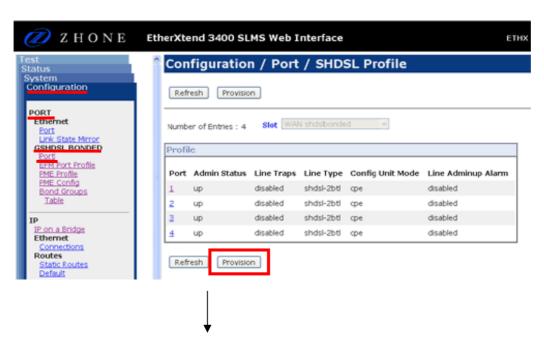


4. Webマネジメント画面が開くとき、ユーザIDとパスワードを聞かれますので、ユーザIDとパスワード(初期:admin/zhone)を入力してWebマネジメント画面へログインする。

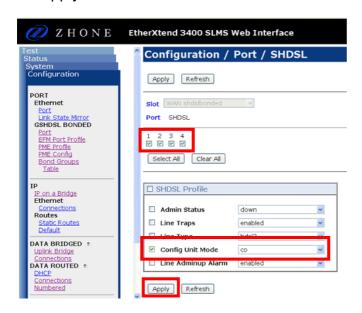


7. CO/CPEモードの設定(WEB)

- 1. WEBマネジメントの左メニューからConfiguration PORT GSHDSL BONDED Portを開く。
- 2. 「Provision」ボタンをクリックする。



- 3. 設定を変更したいポート番号のチェックボックスを選択する。
- 4. "Config Unit Mode"のチェックボックスを選択し、プルダウンメニューから"CO"もしくは"CPE"を選択する。
- 5.「Apply」ボタンをクリックし、設定を有効にする。



8. CO/CPEモードの設定(CLI)

コンソール画面から、下記コマンドでSHDSLポート毎にCO/CPEの設定が可能です。

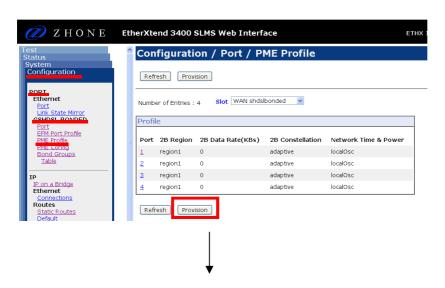
1. CO/CPEモードの設定

※各SHDSLポートのインタフェース名

- SHDSLポート1: 1-1-1-0/shdsl
- SHDSLポート2: 1-1-2-0/shdsl
- SHDSLポート3: 1-1-3-0/shdsl
- SHDSLポート4: 1-1-4-0/shdsl

9. リンク速度の設定(WEB)

- 1. WEBマネジメントの左メニューからConfiguration PORT—GSHDSL BONDED—PME Profileを開く。
- 2. 「Provision」ボタンをクリックする。



- 3. 設定を変更したいポート番号のチェックボックスを選択する。
- 4. 2B Data Rate(KBs)、2B Constellationを設定する(※)。
- 5.「Apply」ボタンをクリックし、設定を有効にする。



※2B Consellation(ラインコード)は、

以下が使用可能

- ·Adaptive(自動)
- -TCPAM16
- -TCPAM32

10.リンク速度の設定(CLI)

コンソール画面から、下記コマンドでSHDSLポート毎にリンク速度の設定が可能です。

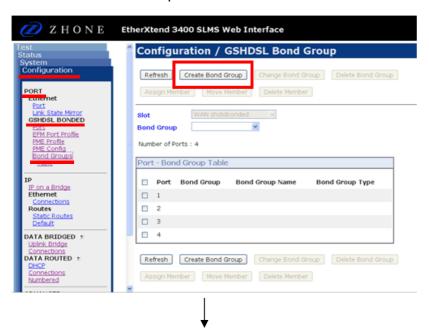
```
1. リンク速度の設定
  > update pme-profile 1-1-1-0/shdsl
  pme-profile 1-1-1-0/shdsl
  Please provide the following: [q]uit.
  efmCuPmeAdminSubType: -----> {ieee2basetlr}:
  efmCuPmeAdminProfile: ----> {0}:
  efmCuPAFRemoteDiscoveryCode: ----> {}:
  efmCuPmeThreshLineAtn: ----> {0}:
  efmCuPmeThreshMinSnrMgn: ----> {0}:
  efmCuPmeLineAtnCrossingEnable: ----> {false}:
  efmCuPmeSnrMgnCrossingTrapEnable: ---> {false}:
  efmCuPmeDeviceFaultEnable: ----> {false}:
  efmCuPmeConfigInitFailEnable: ----> {false}:
  efmCuPmeProtocolInitFailEnable: ----> {false}:
  efmCuPme2BProfileDescr: -----> {}:
  efmCuPme2BRegion: ----> {region1}:
  efmCuPme2BDataRate: ------> {0}: 5696 ← リンク速度をkbps単位で入力
  efmCuPme2BPower: ----> {0}:
  efmCuPme2BConstellation: -----> {adaptive}: tcpam32 ← ラインコード(adaptive,
  efmCuPme2BProfileRowStatus: ----> {active}:
                                                      tcpam16, tcpam32)を入力
  efmCuPmeNtr: ----> {ntr-local-osc}:
  efmCuPmeThreshMaxSnrMgnDelta: ----> {20}:
  efmCuPmeMaintenanceMode: ----> {off}:
  efmCuPmeMaintenanceStartTime: ----> {00:00}:
  efmCuPmeMaintenanceEndTime: ----> {23:59}:
  efmCuPmeSnrMonitoringInterval: ----> {01:00}:
  efmCuPmeErrorThreshMonEnable: ----> {false}:
  efmCuPmeErrorThreshMonNotifyEnable: -> {false}:
  efmCuPmeErrorThreshMonInterval: ----> {12}:
  efmCuPmeErrorThreshMonClrInterval: --> {1800}:
  Save changes? [s]ave, [c]hange or [q]uit: s ← "s"を入力し保存
  Record updated.
※各SHDSLポートのインタフェース名
```

- SHDSLポート1: 1-1-1-0/shdsl
- SHDSLポート2: 1-1-2-0/shdsl
- SHDSLポート3: 1-1-3-0/shdsl
- SHDSLポート4: 1-1-4-0/shdsl

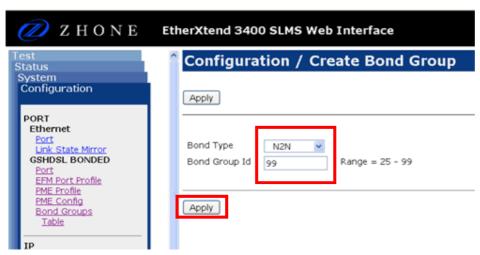
11. Bond Groupの作成(WEB)

Bond Group(仮想回線)を作成し、SHDSLポートを割り当てることで、複数のDSL回線を 東ねて一つの回線として通信を行うこともできるようになります。

- ※1回線の場合もSHDSLポートをBond Groupに割り当てる必要があります。
- 1. WEBマネジメントの左メニューからConfiguration PORT GSHDSL BONDED Bond Groupsを開く。
- 2. 「Create Bond Group」ボタンをクリックする。



- 3. Bond Typeは"N2N", "EFM"から選択し、Bond Group ID(25~99)を入力する。
 ※ETHX-3400同士接続する場合は"N2N"を、ETHX-3400とETHX-3000を接続する場合は"EFM"を選択する。
- 4. 「Apply」ボタンをクリックし、設定を有効にする。



12. Bond Groupの作成(CLI)

コンソール画面から、下記コマンドでBond Groupの作成が可能です。

1. Bond Groupの作成

>bond add group 1-1-99-0/n2nbond





- ① · · · Bond Group ID(25~99)を指定
- ② ・・・ Bond GroupのTypeが"N2N"の場合は"n2nbond"、"EFM"の場合は"efmbond"を指定
- 2. Bond Groupの表示

>bond show all

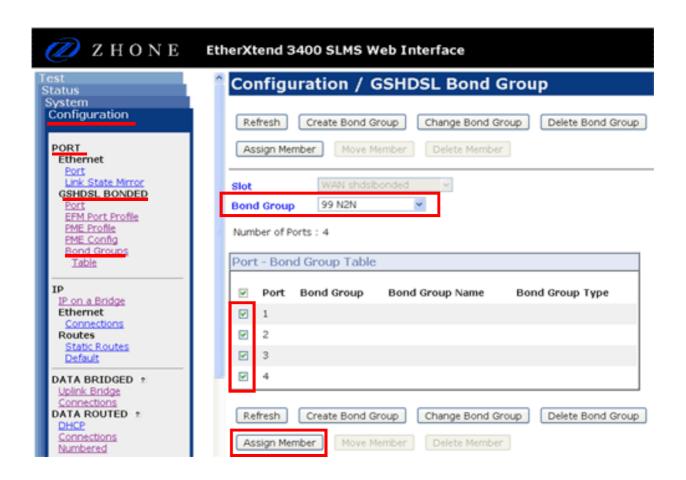
Slot Grpld Type State Name 1 99 n2nbond OOS 1-1-99-0

1.で作成したBond Group

13. Bond GroupへのSHDSLポートの追加(WEB)

Bond Group(仮想回線)に、SHDSLポートを割り当てます。

- 1. WEBマネジメントの左メニューからConfiguration PORT GSHDSL BONDED Bond Groupsを開く。
- 2. Bond Groupを選択する。
- 3. Bond Groupに割り当てたいポート番号のチェックボックスを選択する。
- 4. 「Assign Member」ボタンをクリックし、ポートをBond Groupに追加する。



14. Bond GroupへのSHDSLポートの追加(CLI)

コンソール画面から、下記コマンドでBond GroupへのSHDSLポートの追加が可能です。

1. Bond GroupへのSHDSLポートの追加

>bond add member 1-1-99-0/n2nbond 1-1-1-0/shdsl

1

(2)

- ① · · · Bond Groupを指定
- ② ・・・ SHDSLポートのインターフェース名を指定

※各SHDSLポートのインタフェース名

- SHDSLポート1: 1-1-1-0/shdsl
- SHDSLポート2: 1-1-2-0/shdsl
- SHDSLポート3: 1-1-3-0/shdsl
- SHDSLポート4: 1-1-4-0/shdsl
- 2. Bond Groupに割り当てられているSHDSLポートの表示

>bond show group 1-1-99-0/n2nbond

Bond Groups

Slot GrpId Type State Name
1 99 n2nbond OOS 1-1-99-0

Group Members

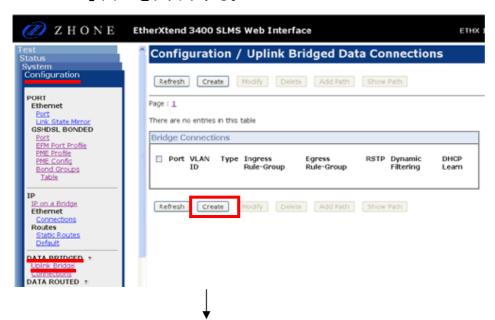
Slot Port Type State Name 1 4 shdsl OOS 1-1-1-0

1.で作成したBond Groupに追加した SHDSLポート

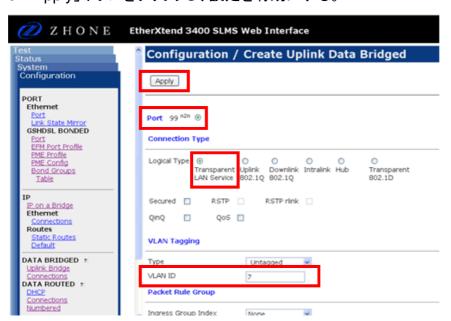
15. Bridgeの設定(WEB)

Bridgeインターフェースを作成することで、Bridgeモードでの通信が可能になります。

- 1. WEBマネジメントの左メニューからConfiguration DATA BRIDGED Uplink Bridgeを開く。
- 2. 「Create」ボタンをクリックする。



- 3. SHDSLポート(Bond Group)を選択する。
- 4. "Connection Type"の"Logical Type"について、"Transparent LAN Service"を選択する。
- 5. "VLAN Tagging"の"VLAN ID"を入力する。
- 6. 「Apply」ボタンをクリックし、設定を有効にする。



16. Bridgeの設定(CLI)

コンソール画面から、下記コマンドでBridgeの設定が可能です。

1. Bond Groupの設定

>bridge add $\underline{\text{1-1-99-0/n2nbond}}$ tls $\underline{\text{vlan 7}}$ untagged





- ① · · · Bond Groupを指定
- ② · · · VLAN IDを指定

2. Bridgeの表示

>bridge show

Тур	e VLAN	Bridge	St	Table Data
tls	7	1-1-99-0-n2nbond/bridge	PND	

1.で作成したBridge

17. マルチアクセス可能なBridgeの作成(CLI)

コンソール画面へログイン後、以下のコマンドを実行することで、一度接続を開始したPC を、他のLANポートへ接続し直しても通信が可能になります。

1.マルチアクセス可能なBridgeを作成

>bridge add 1-1-99-0/n2nbond uplink vlan 1000 tagged

(1) (2) (3)

>bridge-path add 1-1-99-0-n2nbond-1000/bridge global flap fast

- ① · · · 作成済みのBond Group ID(どれか1つ)を指定
- ②・・・・①で指定したBond GroupのTypeが"N2N"の場合は"n2nbond"、"EFM" の場合は"efmbond"を指定
- ③・・・・使用していないVLAN IDを指定

※WEBマネジメント上では実行できません。

18. ユーザアカウントの設定・変更(CLI)

コンソール画面から、ユーザアカウントの設定・変更が可能です。

1. ユーザの追加

>user add testusr password testpass all





- ① … ユーザ名
- ② ・・・・パスワード
- 2. ユーザパスワードの変更

zSH> user modify testusr password testpassword





- ① … ユーザ名
- ② ・・・ 新しいパスワード

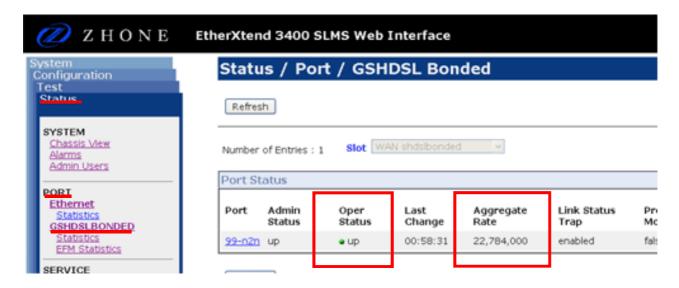
OK to modify this account? [yes] or [no]: yes \leftarrow "yes"を入力 User record updated.

※WEBマネジメント上では実行できません。

19. ステータス確認(WEB/CLI)

ETHX-3400では、WEBマネジメントまたは、CLIにてステータスを確認することが可能です。

- ■WEBマネジメントでのステータス確認
- 1. WEBマネジメントの左メニューからStatus PORT GSHDSL BONDEDを開く。
- 2. SHDSLポートの接続状態を確認することができる。



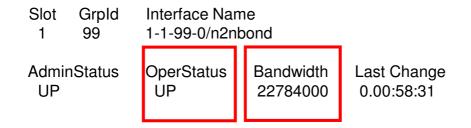
SHDSLポートのステータスおよびリンク時の速度(Bond Group毎)

up:接続中

down: リンクダウン or 未接続

■CLIでのステータス確認

1. Bond Groupのステータス確認 >bond stats 1-1-99-0/n2nbond



SHDSLポートのステータスおよびリンク時の速度(Bond Group毎)

up:接続中

down: リンクダウン or 未接続

20. ステータス確認(LED)

ETHX-3400では、本体LEDにてステータスを確認することが可能です。

■LEDでのステータス確認



LED ランプ	色	動作説明
Power	緑	点灯: 電源オン 消灯: 電源オフ
Diagnostics	橙	点灯:診断中 消灯:診断終了
Operational	緑	点滅:起動中 消灯:起動完了
WAN	緑	点灯: SHDSLポートリンク 消灯: SHDSLポートリンクダウン